

## 令和4年度第2回二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会 議事録要旨

日 時 令和4年9月21日(水) 9時30分～11時45分

場 所 二宮町役場 第1会議室

出席者 ○会員

出席 16名

原会長、山内副会長、大矢会員、八幡会員、渡邊会員、宮戸会員、石井会員、遠藤会員、小林会員、中西会員、伊庭会員、野谷会員、岡野会員、渡辺会員、藤原会員、森会員

欠席 3名

関口会員、齋藤会員、脇会員

○オブザーバー 2名

○事務局 教育部長、教育委員会教育部教育総務課6名

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第
- ・資料1 二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会 第2回
- ・資料2 二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会 2年間の予定(案)
- ・資料3 こうりゅう塾(2022年6月12日 元気コミュニティ主催)ディスカッションで出された意見
- ・資料4 小中一貫教育の成果と課題
- ・資料5 施設一体型小中一貫教育校 先進事例視察候補一覧
- ・資料6 令和4年度二宮町教育講演会受講アンケート集計結果
- ・資料7 令和4年度 小中一貫教育アンケート結果

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

会 長：おはようございます。第2回の研究会については、8月19日に開催予定でしたが、コロナの感染状況があまりよくないため今日に延期となりました。今後は、コロナによる延期がないように願っております。本日は、よろしく願いいたします。

### 3 協議

- (1) 二宮町の育てたい子ども像について
- (2) 小中一貫教育の特徴とその成果、課題について

会 長：第1回は講演会形式で行ったことからコンセプトの説明が十分ではなかったため、あらためてパワーポイントの資料を作成しました。

新しい学校づくりは、市民の願い、教員及び市民の知見が入ってくるものと考えています。今は、地域の力で子ども達を育てる時代になっていて、二宮町の各学校には、学校運営協議会制度が導入されています。この制度は、保護者や地域住民と学校・教育委員会が、学校の教育目標の設定や達成に協働して責任を果たす仕組みになっており、地域としても責任がある時代が変わってきました。

学校づくりにおいては、地域の声や力を寄せ集めるべきだろうということで、この研究会は、学校運営協議会の皆様に多数参加していただいています。研究会の今後の流れについては、資料2にまとめてあります。今後内容の変更はありえますが、要綱に基づく任期の2年間に合わせたスケジュールになっています。最終的には提言書にまとめあげていくこととなります。提言書の位置づけですが、作っていく過程や結果が今後の学校づくりに反映されていくものだと思います。

本日の協議は、二宮町の目指す子ども像の設定となります。二宮町小中一貫教育推進計画のP36にも目指す子ども像が記載されていますが、こちらは教育委員の皆様が協議して作りあげたものになります。また、推進計画のP42には、教育目標についての記載がありますが、教育目標も言ってみれば目指す子ども像となります。教育目標は先生方が作り上げたものとなり、こちらでも大事にしていく部分となります。これらを踏まえ、研究会では、地域の方々の願いもいれて子ども像を考えていきたいと思えます。9年間の義務教育の間にどういう力を身につけさせたいか。15歳の時点でどんな姿の子どもを育てていくのか。出口をしっかりと見据えた表現にしていきたいと思えます。

今年の6月に元気なコミュニティ協議会で講座を開き、皆様の意見をまとめてみました。カテゴリー別にまとめてみましたので、資料3も参考にさせていただき議論したいと思えます。

また、これからの社会がどのように変化していくかは、目指す子ども像を決めていくうえでおさえておく必要があります。未来の社会は、少子高齢化や、デジタルトランスフォーメーション（以下、DX）などさらに進んでいくこととなります。DXについて委員から簡単にご説明をお願いします。

委員：何年前かはITという言葉でしたが、ITはコンピュータのイメージしかないと思えます。DXは、AIなどの技術により複合的にネットワークがつながり、皆様の生活の利便性がさらに向上することとなります。例えば、単に無人のレジではなく、銀行等とのネットワークがつながり、レジでの支払いで何も持っていく必要がなくなるというようなイメージです。

会長：私は教員の世界しかわかりませんが、こうやって地域の方からご意見がうかがえるのと深い理解へとつながります。ありがとうございます。子どもの頃には想定していなかったことがどんどん進んでいます。一方で、今後、教師や学校の教育力の大幅な向上はあまり期待できません。ネガティブな言葉に聞こえてしまうかもしれませんが、先生方はすでに上限まで働いているため限界状態にあります。そのため、今後は別の手段を考えていく必要があるという意味として受け止めてください。

電車の運転手になりたいと思っても、将来は自動運転技術により従来の運転手

の業務が不要になるなど、子ども達の65%が今は存在していない仕事につくと言われている。つまり、今は存在していない仕事をつくらなければいけないということにもなります。世の中の変化は、どのようなキャリアを選択するにかかわらず全ての子ども達に影響します。二宮町全体の子どもを考えていく際に、このようなところも意識して考えていかなければいけないと思いました。

委員：補足ですが、DXが進むにあたり仕事が無くなるイメージがありますが、これまでの時代の流れでもそういうことはありました。例えば、かつて電話交換手は花形の職業でしたが、技術進化によって衰退してしまったことがあげられます。

会長：これから来る時代に対してどういう力が必要なのか。一つは読解力。学校では着実に子どもたちの力に還元されていくような教育活動を作り出していかなければなりません。今の時代、主体的に考える力が求められています。世界的な、国際的な教育に対する期待度は、OECDのラーニングコンパスを見ると、自分で未知の環境を自力で歩まなければいけない、責任を果たさなければならない。そうしないと、持続可能な世界にならないと言われています。

小松先生の講演の中では2つの学力観があると言われました。変革を起こすような力や、内面的な、いわゆる非認知に対することも学力として捉えなければいけないとお話があったと思います。子ども達の現状について、全国的に1割程度が10点未満の入試結果で高校に入学していると聞きました。これは人口が減少しているため、ほぼ入学できる状態になっています。学力だけで見ると、二宮町は全国平均とほぼ同じか上回っています。平均と聞くと安心しますが、一人ひとりの子どもを見ていくと、下もいることを忘れないでほしいということです。二宮の子どもは、ほぼ100%進学しています。高校現場の方からお話を聞くと、知識を理解しないまま高校に進学している子どもも多く、高校では学び直しをしているとのことでした。1年生の半分は学び直しの時間に充てており、その時間を与えることで理解できるようになるとお伺いしました。これは、子ども自身に問題があるのではなく、本来やればできる子ども達が高校で学び直しに時間を割いているため、高校のカリキュラムを7割程度しかできない状況になっています。大学でも学び直しの時間があります。これが日本の現実、二宮町の現実です。誤解がないように伝えると、教員の問題ではなく、システムに問題があると考えています。

これから協議するにあたり、このような状況を踏まえたうえでグループごとに話し合っ

## ○グループワーキング

2つのテーマについてのグループワーキング結果を発表

### 【二宮の子どもたちの課題は？】

#### Aグループ

- ・社会性
- ・学力の問題、格差と二極化

- ・子ども達自己表現の仕方
- ・個人と集団とのつながり
- ・3つの学校の人数差
- ・地域の大切さ
- ・世界的視野

### **Bグループ**

- ・教育のシステムそのものに課題
- ・多様性が認められるシステムになっているのか
- ・子どもが地域活動に携わらない。親が携わらないと子どもも関わらない。
- ・人と人の関係の繋がる力が弱い

### **Cグループ**

- ・ボーイズビーアンビシャス
- ・素直でいいけど、それでいいのか
- ・格差のない教育の中で個性や良さや特徴が伸ばされる仕組みがほしい
- ・国際的な視野（外国の先生が少ない）
- ・世界を知らなければいけない（国際化を学び広い視野を）
- ・インターローカリズム（インターナショナルとローカルリズム）

### **【9年間の義務教育で育てる子ども像は】**

#### **Aグループ**

- ・地域を愛する
- ・世界と自然につながる（私たちが知っている以上に子ども達は世界とつながっている。YouTubeとか。）
- ・バーチャルではなくリアルを知る
- ・他者と優しく接する

#### **Bグループ**

- ・地域、経験体験を増やした方がいい
- ・小中だけでなく、幼保を含めて
- ・学年があがることへのあこがれが持てる
- ・9年間の間に広がる視野
- ・小さな失敗は大事

#### **Cグループ**

- ・自分の強みを知っているそれを生かせる
- ・自己理解を強める
- ・温町知新（温故知新を変えた言葉。二宮町を知り、世界に羽ばたいていく）

- ・ 憧れる大人像がある

会 長：各グループで出たキーワードを整理して、次回皆さまに文章化してお示しします。

会 長：それでは、小中一貫教育について少し説明します。今は、小学校6年と中学校3年間ではっきり分かれています。9年間連続した教育を行う学校をつくるということです。学校施設の形態は、施設一体型、施設分離型があります。施設一体型は同じ建物で小中学校の9年間を一体的に行っていくということです。二宮町では令和5年度から分離型の小中一貫教育校が始まり、将来的には施設一体型になっていく計画です。将来がいつになるのかを、研究会で協議する中で見えてくるといいなと考えています。

小中一貫教育推進の意義の一つは、教育システムを柔軟にしていくことができるようになることです。子どもたちの多様性が生かされる学びやカリキュラム編成が可能になります。また、小学校と中学校という不連続によるつまずきが解消されることが最大の特徴です。

もう一つの意義は、実践校を見ていて思うのですが、数値では測れない非認知能力にあると思います。異年齢の子たちがいることで、教えるより見て感じて学べること、それは先生が教えきれないことで、このことが数値で測れる学力にもつながっていきます。子ども達の自尊感情が育っている実態もあります。

成果と課題については、資料4にまとめてみました。細かい内容については説明しきれませんので後で確認をお願いします。成果の方がたくさんありますが、課題もあります。資料には掲載しませんでした。小中一貫教育を取り入れると、当初は先生方の負担感は増します。これは、避けては通れないので二宮町でも必ず起こりえます。ただ、このことは小中一貫教育そのものの課題ではないので載せませんでした。移行期間に対して起こりえる問題ですが、慣れてきたら成果に繋がるものです。最後になりますが、願いとしては、二宮の魅力ある学校づくりをしていきたい、二宮の学校に子どもを通わせたい、二宮で子育てしたいと思えるようにしていきたいと思います。

委 員：例えば運動会などでは、現在は小学校の6年生は最高学年としてやりきった感はあると思います。小中一貫になることで、そのような達成感などがなくなってしまうのか少し懸念しています。

会 長：区切りの仕方だと思います。どこにハードルを置くのか。そこで達成感を持たせるようなことを代わりに置いていかなければならないと思います。

委 員：小中一貫と中高一貫との比較できるものがあれば。

会 長：中高一貫は管轄が異なるので、研究会の中では町でできることを中心に協議していくこととなりますが、町での教育を経た子どもたちの将来の方向性の一つとして、中高一貫のシステムのあり方やその目指すものを参考にすることはできると思います。

委 員：小中一貫になれば多様な問題は解決するというように聞こえてしまっていますが、今もできることはあると思います。小中一貫になればなんでも解決できるというような、誤った認識につながらないように気を付けなければならないと考えます。小中一貫を目指して、それに携わる人が前向きに取り組むことで良い循環が生まれるということ

なので、分離型等でもできるところは表していく必要があると思います。

会 長：分離型と一体型でできることの比較する時間も設けたいと思います。今できることもやっていると思いますので、分離型での成果が一体型に繋がっていくと思います。

委 員：小中一貫校でも、中学になったら中高一貫に行けるものですか。

会 長：それは問題ないと思います。

続いて、先ほどの社会の変化について、追加で現役の方に意見を聞きたいと思います。

委 員：自動車産業は成熟している業界であるため、世界に対抗していくためには、今までやっていたことではなく、常に先んじてやっていかなくてはならないことがあります。今、若い人たちと関わっていますが、自分なりの考えが持てていないと実感しています。30年エンジニアをやっていますが、新人の採用なども関わってきました。ここ5年、10年については、ひと際そういうところが弱くなっていると実感していて、危機感を持っています。

会 長：今のお話も目指す子ども像に関係してくるかなと思います。

### (3) 先進校視察に向けた視察校の選定について

会 長：続きまして、先進校視察についてです。今年度、研究会での視察を予定しています。

あらかじめ、4つの学校を選定しました。本日決まらなかった場合は、最終的には会長、副会長、事務局で決めたいと思いますがよろしいですか。意見交換はこの場でしていただければと思います。

### ○グループワーキング

各グループで視察候補一覧の検討結果を発表

**Aグループ** 品川のどちらか 品川学園

**Bグループ** 品川の日野学園、品川学園も見てみたい

可能なら、来年以降は二宮町に近いような小さな町がやっている小中一貫教育校があれば見てみたい

**Cグループ** 品川学園を見たい

会 長：皆様のご意見より、品川学園で調整したいと思います。長時間に渡りありがとうございました。今後も協議を中心に進めていきます。

### (4) その他

事務局より

- ・資料6は、7月26日の教育講演会（小中一貫）のアンケート結果になります。
  - ・資料7は、7月に小学校5、6年生、中学校1年生にアンケートを取った結果になります。
  - ・第3回目の研究会は、12月12日（月）午後2時から予定しています。
- ※ 後日確認した結果：12月9日（金）に変更になった。

- ・第4回目は視察になります。来年1月頃を予定しています。

#### 4 閉会